

# 藝文いちかわ

市川市芸術文化団体協議会は、市内における各種芸術文化団体相互の協力と理解を深めるとともに、市川市の芸術文化の振興に寄与することを目的とする。

## 市川市芸術文化団体協議会設立40周年 芸術文化集会20回記念の年に向けて

### ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会名誉会長  
市川市長 大久保 博



平成25年度「藝文いちかわ」の発行、心からお慶び申し上げます。  
市川市芸術文化団体協議会の白倉会長をはじめ会員の皆様におかれましては、日頃より、本市の芸術文化の普及と発展に多大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴協議会は、各種芸術文化団体の相互協力と理解を深めるとともに、身近に芸術や文化に親しむことで、市民が心にゆとりや豊かさを得ることのできるよう、様々な自主的創作活動に取り組まれるなど、本市における文化団体の中心的な役割を担っていただいております。

今回の市川市芸術祭・文化祭には、記念すべき第20回を迎えます。「芸術文化集会」が貴協議会と本市との共催により、来年二月八日市川市文化会館小ホールにて開催されます。確かな芸術家が揃う皆様の公演は、来場者の皆様を満足させる素晴らしい舞台になると、今から期待しております。

今年度九月のバス研修では、江戸東京博物館において、江戸東京の歴史と文化について豊富な資料や復元模型の見学や、特別展では、エドワード・シルベスター・モース氏(1858-1920年)の生活道具や陶器、写真、スケッチ等が展示され、芸術に対する見聞や、会員相互の親睦がこれまで以上に深まったのではないかと思います。  
貴協議会の皆様には、今後とも本市の芸術文化の普及と発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、これから益々のご発展と、ご健勝を祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

### わが街の藝文協に思うこと

市川市芸術文化団体協議会  
会長 白倉 道代



ことし、市川市の藝文協は、四〇周年を迎えました。この藝文協の前身は、昭和二十年暮れに、「市川文化会」という名称で結成され、戦後の枯渇した市民の心に、音楽や美術を通して、潤いと希望をもたらし、やがてそこから幾つかの芸術文化団体が生まれ、それぞれに年々発展しました。そして、「文化都市 市川」としてその将来の発展を期するため、当時の市川美術界の理

事長であった故藤野天光先生の呼びかけによって、昭和四十九年五月五日、市川市市民会館において、「市川市芸術文化団体協議会」が設立されました。昭和四十九年五月から五十年三月まで、初代会長として藤野先生、昭和五十年四月から平成十三年五月までは、二代目会長として故村上正治先生が勤めて下さいました。村上先生はクラシック音楽が専門でいらつしやいましたが、その分野だけでなく、全ての芸術文化の素晴らしさを多くの人々に伝えるため、日本全国に芸術文化振興のための組織作りを奔走されました。

このような素晴らしい先輩たちの惜しみない努力によって、現在のこの市川市の藝文協が存在するのだということとを、しみじみと感じる今日のごろでございます。あらゆるものが機械化され、ものごとがスピードに押し流されていく現代だからこそ、芸術文化が必要なのではないでしょうか。芸術文化が人々の心に豊かさや潤いをもたらす、生きる力に少しでもお役に立てたら幸いと思います。

芸術文化に携わる私たちは、今こそ、先輩たちの残してくれたこの道を守りつかりと守り育て、次の世代に伝えてゆくことが、私たちの大切な使命なのだと考えております。





## 芸文協団体と市響との共演

市川交響楽団協会副理事長 星 乗昭

『いちぎょう』の愛称で親しまれている市川交響楽団は、昭和26年千葉県下で唯一のアマチュアオーケストラとして村上正治氏が創設いたしました。

そしてそれより2年早く発足した市川混声合唱団・昭和35年市川交響楽団・昭和50年市響ジュニアオーケストラ・昭和54年行徳混声合唱団・昭和59年市響ジュニアオーケストラ育成会の5団体から市川交響楽団協会が成り立っています。戦後の荒廃を失意の中で、人々の心を癒すクラシック音楽の普及を目指して活動してまいりました。

写真はオーケストラより2年早く発足した現在の市川混声合唱団員が練習後に市川公民館で撮ったものです。指揮者の山崎滋氏のもと、60名で充実した練習を毎週木曜日6時45分からおこなっております。

昨年度の演奏会で特筆すべきことは、芸文協団体の市川市パレエ連盟第一回公演、2012年12月24日(祝)市川市文化会館・大ホールで「くみ割り人形」全幕の演奏。そして2013年3月31日(日)市川市洋舞踊協会第30回公演でバレエ「パリの喜び」指揮：井田勝大氏との公演を市川交響楽団が管弦楽を担当できたことです。

このことは、市川市の芸術文化団体が協力し合って普段では出来ない大きな催しが可能となった例だと思えます。



平成25年7月 市川公民館にて市川混声合唱団の練習後に撮影

5団体からなる市川交響楽団協会は今後年間10回もの興味あふれる演奏会を開催してまいります。その中でも特筆する演奏会は平成25年12月23日(祝)の映画音楽特集のハリーポッター組曲、スターウオーズほかの楽しい演奏会です。もう一つを上げれば、村上正治が演奏したかったが、合唱の人数が足りず取り上げることができなかったバッハの大典、マタイ受難曲を10月19日(日)に交響楽団の管弦楽伴奏で演奏されることです。どうか皆様これから10回に及ぶ演奏会にお誘いのうえ、お越しくください。

## 芸文協、第二〇回文化集会の

発展を祈って

市川市花道協会 理事長 木村 美峰

市川市花道協会は、戦後の荒廃した市川を少しでもうるおいのある街にと、昭和二六年に愛好家の諸流派の先生方で結成され、古くから東京の奥座敷としての市川に、文化芸術の土壌が自ずと育ってまいりました。

市川市花道協会のいけばな展は、毎年春に先がけて開催され、心をこめて魅力ある作品を、そして、厳しい時代だからこそ観る方に感動を与え、生きた花のすばらしさを伝えることができたかと願って居ります。花の形はさまざま、またそれを生ける人びともさまざまです。その方々のそれぞれの思いが、伝われば、そしてすこしでも深い花の世界が伝承できればと、思っています。また、最近では、子供のお花コーナーを設け、小さい頃より、花の美しさや、素朴な姿に触れて、心を豊かに花開いていただきたいと願うばかりです。

市川花道協会第六十九回いけばな展は、平成二六年三月七日(金)より十日(月)まで開催いたします。また、芸文協開催の第二〇回文化集会では、市川文化会館小ホールの舞台上に、舞台空間を彩る花の魅力と願っております。



いけばな展で、大久保市長と共に





## 黒 髪

市川三曲会 会長 宮本 誠子

「夕べの夢の今朝覚めて  
ゆかし 懐かし やるせなや  
積もると 知らず 積る白雪」

これは、女心の切なさを歌った蓮如上人の一首です。  
天明年間に誰ともなく口ずさみ、曲付けされたのが、今に伝わる名曲「黒髪」です。

琴・三弦・尺八と言った素朴な楽器から生まれる哀愁に満ちたメロディのなんと美しいことでしょう。芝居や映画のお姫様達の奏でる曲に最も使われていると言うのも、うなづける気がします。何百年もの間、歌い継がれ、人の心を引きつけて止まない三曲の魅力とは、一体何なのでしょう。

この古来の伝承芸能に取り憑かれている私達は、演奏する度に身も心もリフレッシュされ、一生の宝物としてこれからも大切にしていきたいと願っております。

## 人から人へ 語り継ぐ

市川民話の会 湯浅 止子

市内の古老からお話を伺い記録していく活動と、語っていく活動をしている。ここ五年ほどは語ることが多くなってきた。

市内公民館・小中学校・地域ケア・老健施設等からの依頼が多く、三人から五人の会員で伺い、できるだけ

その地域に伝わるお話を語っている。八幡街回遊展、行徳寺のまち回遊展、市の街回遊展 中国分や妙典にも参加した。

平成二十四年・二十五年は、市川市文化祭で他の語り団体とコラボレーションし、市内朗読の会和（なごみ）の会・根つこの会・すがの会とともに、メディアパーク・グリーンスタジオで「市川の民話のつどい」を開催した。集客の面でも幅広い方に参加していただけたこのコラボレーションは成功であった。毎年の開催はなかなか条件が厳しいので検討事項でもある。昨年度十一月には『改訂新版 市川のむかし話』を刊行した。これまで刊行したものには『市川のむかし話』『続市川のむかし話』『市川の伝承民話』『伝承民話』がある。引き続き古老の方から採話した話をテープ起こして刊行を続けたい。

民話の会の活動は多岐に渡っている。三十有余年を経て伝承活動も定着し、「市川の民話」が、市民の皆さまお一人、お一人に伝わっていくことを願って活動を続けていきたい。「むかしむかあし、あつたとよ」「いちがさげえた」（二期栄えた）



## 市川市手工芸連盟の活動

市川手工芸連盟 理事長 益子智仔

市川市は東の鎌倉と言われるほどの文化の発達している処ですが、市内の手工芸作家又は愛好家の集うところが無いことをみて広報で呼びかけ、各手工芸の先生又は愛好家の方々に集まっていただき結成の運びとなりました。

手工芸とは一般の生活の中から生まれたものであります。昔から衣類を大切に長持ちさせる様にと生まれたものの中には、さしこ、こぎん刺繍、あるいは継ぎ接ぎのパッチワーク等が代表でしょう。

最近では生活をエンジョイするため、装飾品を作つて楽しんでいらつしやる方も多いです。このようなものの中から希に美術品とも思える作品が出来るものです。それが手工芸と考えられます。

会員十九名

(指導者として各自の部門が違う)

理事長

益子智仔  
白無垢和紙人形

理事長補佐

剣持光子  
原色ドライフラワー

副理事

原 由美  
バスケットリ

福祉

牧野ミサホ  
革工芸  
上野高子  
クレイアート

会計

和氣ミユキ  
編み物  
石井みさ子  
アートフラワー

事務

佐藤恵子  
粘土と磁器人形

市野恵美子

押し花

古川有為子

バーナーワーク陶芸

高橋美智恵

アメリカンフラワー

井上美智子

組紐・布細工

木賀 輝子

工芸盆栽

木村タケ子

木目込み人形ちりめん手芸

松丸 貞子

袋物

牛尼 節子

和服リメイク

青木 富子

和服リメイク

高濱 知子

パッチワーク

会計監査

会員

木目込み人形ちりめん手芸

袋物

牛尼 節子

和服リメイク

青木 富子

和服リメイク

高濱 知子

パッチワーク



手工芸展の一部



## 第35回記念の合唱祭を迎えて

市川市合唱連盟 理事長 酒井 玄枝

戦後の市川市で、村上正治先生、藤野天光先生、内田一油先生が中心となり始められた活動が芸文協の基礎となりました。市川市の文化の中核として活動を展開、文化集会千葉県大会の開催など着実に歩みを重ね今年、芸文協創立40周年、そして、第20回芸術文化集会開催の記念すべき年となりました。

市川市合唱連盟は、昭和53年に加盟、以後芸文協と共に合唱活動を展開してまいりました。合唱連盟の生みの親であり、クリスチャンとしての村上先生のお人柄と、合唱への熱い思いはなくなるまで続き、様々なご助言は忘れることができません。昭和55年、18団体でスタートした市民合唱祭は、年々出演団も増え2日間にわたり大ホールでの開催となりました。互いに聞き合い、お客様と共に合唱の楽しさを体感、合唱の振興にも寄与しています。今回の第35回記念合唱祭は、市内小中学校合唱部の特別出演、指導者による特別演奏や出演団体の合同演奏など特別プログラムを企画、出演団体も日頃の成果を充分発揮して充実した盛大な合唱祭開催となりました。

また、平成24年5月、市川市と葛飾区との間で交わされた相互交流連携事業により葛飾区合唱連盟との交流も生まれ、今後の合唱活動の広がりにも大きな期待を感じています。文化振興財団・市川交響楽団・市川市合唱連盟によりスタートした「市川・



市川市民合唱祭 市川市文化会館大ホール

第九」演奏会も文化会館主催企業、「はるのうたごえ」として定着しました。毎回多くの市民参加によりお客様と共に感動を共有、合唱人拡大へとつながっています。東日本の震災以来、「うた」の力の素晴らしさを実感いたします。若者や子供たちと共に更なる合唱の拡がりに向けて、今後の合唱連盟の活動に大きな使命を感じています。

## 市川市写真連盟 発足二十五年

市川市写真連盟 会長 津田 芳郎

市川市写真連盟が市川市芸術文化団体協議会に加盟して、二十五年になります。この度、市川市芸術文化団体協議会が創立四十周年を迎えたことをお喜び申し上げます。

市川市公民館等で写真の講座が開かれて、それぞれクラブが始まりました。二十五年前に市川市写真連盟が発足し、芸文協の加盟団体として活躍させていただいております。

市川市写真連盟と市川市が共催で市民の写真公募し、文化会館で毎年六月に展示して参りました。今年も二〇〇人近い市民の出品があり、年々盛大になっております。委嘱した審査員に審査していただき、市川市長賞、市議会議長賞、教育長賞、市川市写真連盟賞、その他入選、佳作及びスポンサー賞がございます。

デジタルカメラの普及に伴い、フィルム時代のように業者に現像プリントしてもらおうのではなく、各自がパソコンに入れ、自分でプリントして出品してくださる方も多くなりました。それだけに市民の写真愛好家の個性あふれる作品が展示されております。

市川市写真連盟は、芸文協とともに発展してまいります。



市川写友会 藤沢 政弥



市川市写真連盟 重光 豊彦



## 合同公演を終えて

市川市洋舞踊協会 会長 荒木 洋子

本年、3月31日に開催した第30回市川市洋舞踊合同公演では、加盟団体の作品のほか、市川交響楽団のフルオーケストラ編成による演奏(指揮・井田勝大)で、オッフエンバツク曲『パリの喜び』を基にした創作合同作品を約百二十名の出演者により上演し好評を得ました。

市川市長ほか、大勢の皆様にご覧いただき協会の大きな励みとなりました。本当に有難うございました。

来年の3月29日には、第31回市川市洋舞踊合同公演を開催し、「市川民話の会」の協力を得て創作合同作品『つるの恩返し』を上演いたします。是非とも多くの方々にご来場いただきたくお願いいたします。

当協会は、現在クラシックバレエの団体、モダンバレエ・ジャズダンスの団体、フラー団体の6団体で運営しておりますが、更に多くの団体の方々に加盟していただけるような協会を目指して、頑張つてまいりますので、これからも皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

左記に、協会加盟団体と主宰者を紹介いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

☆ クラシックバレエ 赤い靴  
(加藤 泉)

☆ ケアアライラニ・フラグループ  
(羽鳥美紗子)

☆ すみれバレエクラシック  
(荒木洋子)



第30回市川市洋舞踊合同公演 市川市文化会館大ホール 2013.3.31

☆ 三沢モダンバレエ

・ジャズダンススタジオ

(三沢朋子)

☆ 玲子バレエスクール

(菅原玲子)

☆ わかばダンスアトリエ

(若葉富美子)

## 「市川市芸文協」創立四十周年

### 第二十回芸術文化集會に寄せて

そして、市川オペラ振興会の昨年、今年の公演

市川オペラ振興会 理事長 木村 珠美

市川オペラ振興会は、市川市に初めてオペラを公演し、今年三十三年を迎えることができました。芸文協へは、村上先生より入会依頼をいただきまして、それ以来、芸文協の皆さまと共に、さまざまな作品を一緒に公演させていただけたことは、貴重な経験となっております。

さて、市川オペラ振興会は、昨年、初めてイタリアより世界で活躍する極上の美声を持つテノールのアントニオ・デ・パルマ氏を招聘し、『歌劇「道化師」とヴェリズモ・ガラコンサート』を公演いたしました。また、オーケストラには、イタリア歌劇場のトップ奏者三名を招き、指揮者は、イタリアの歌劇場で活躍中の市川オペラ振興会音楽監督である吉田裕史、イタリアオペラを中心に公演してまいりました当会では、パルマ氏、そしてイタリアのトップ奏者の方々より絶大な信頼を得て公演し、パルマ氏からは、木村珠美のイタリア歌劇場の公演に出演依頼と、イタリアでの教授の依頼もあり、ソリストも合唱もオーケストラも、スタッフ共々、素晴らしい高揚と共に大変好評の公演となりました。

また、今年、ヴェルディ生誕二百年にあたり、当会は、「ヴェルディ生誕二百年記念・イタリアガラ公演」



『オペラ「道化師」アントニオ・デ・パルマ氏 木村珠美他 合唱団の皆さん』

を、開催いたしました。昨年も来日の、二名のイタリアの歌劇場よりトップ奏者ジュゼッペ・ファビオ・リザンティ氏、ロザリア・マストロシモーネ氏と、日本人の奏者と、そして歌手の素晴らしいコラボレーションが、繰り広げられました。

それでは、第二十回芸術文化集會で公演されます村上正治先生、生誕百年と、「芸文協の過去、現在、未来」にて、村上先生の懐かしい名曲の数々を、歌わせていただきますことは、大変光栄なことでございます。



## 文化都市市川にふさわしく

日本アートギャラリー代表 及川 扇翠

日本アートギャラリーは二〇〇八年に絵画・彫刻・工芸・写真・華道が展示できる貸しギャラリーとして開館致しました。

東京まで行かなくても素敵な美術作品に触れられ、音楽鑑賞が出来る幅広い芸術発信の場として、また地域の皆様の癒しの空間としてお役にたてればと毎週火曜～土曜日11時～6時に、日曜日は希望により11時～4時に開館しております。

お蔭様で5年が経ち、企画の美術展にも多くの作家のご出展を頂き、年々展覧会を通じ市内・県内はもとより越谷市・三郷市・春日部市・鎌ヶ谷市・武蔵野市・三鷹市・調布市・小金井市・国分寺市・小平市・東村山市・川崎市・横浜市・大和市・鎌倉市・福生市・和光市・茅ヶ崎市・富士見市・飯能市・所沢市・行田市・秩父市・浜松市・北本市・熊本市・藤沢市・宇治市他海外は、イタリア・フランスからの出品もありグローバルな画廊として、新たな交流が生まれ素晴らしい芸術



家の社交場として皆様にお喜び頂いて居ります。

個展・グループ展・会員展やギャラリーの企画展を通じて技を競い合い出品者・ご来場者共に作品を通じて心温かい交流を育んでおります。またプロ作家だけでなく退職後趣味で始めた絵画が個展で売れて生甲斐に成ったりと皆様のお役に立てることはこの上ない喜びでございます。

今後も芸文協の他の団体との交流を深め皆様と共に尽力し、若い世代の芸術家にも夢を持ち活躍して頂けるよう尽力して参ります。今後とも宜しくご支援ご指導賜りますようお願い申し上げます。



## 三年目を迎えて

茶道圭鳳流 藤本鳳葉

市川市芸術文化団体協議会に入会し、今年で三年目を迎えました。

昨年は二月の文化集会で、茶道圭鳳流狭霧会一同、そして、市川四中茶道部の生徒二〇名と共に、「和と輪を紡ぐ」をテーマに、舞台で四中生がお点前をさせていただき、お茶の世界を皆さまにお見せでき、とてもいい経験をさせていただきました。芸文協の皆さまのあたたかい協力で無事終えることができました。感謝申し上げます。

今年三月三日の雛まつりの時には、中山の町会の方々にお誘いを受け、四中生とともに二日間お抹茶の接待をさせていただきました。地域の方々が二〇〇名位いらして大盛況でした。夏休みは、毎年三回、東部公民館でコミュニティクラブのふれあい親子茶道教室を開き、四中生が部活動の一環で参加し、小学生たちに一生懸命お茶の点て方、飲み方をやさしく指導して小学生にとっても喜ばれ、参加者が年々増して、十五年くらい続けてきて、今ようやく広がってきたと思います。

これからの子どもたちに、日本の文化芸術を伝えていくことが私たち大人の大きな役目だと思います。これからも茶道を通して芸文協の皆さまと協力して、益々芸文協が発展し大きくなっていくことを楽しみにしています。今後とも皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。



市川市立第四中茶道部の生徒さんと共に





奄美の魅惑の宵に奄美を唄う

あずさ企画代表

本多安仁(筆名 北峰 聖)

昨年12月発行の第14号「芸文いちかわ」に「奄美の風」発表会が2013年4月に、小笠原伯爵邸にて開催されるだろうと書きましたが、その通り4月18日に素晴らしい好天に恵まれて、歴史的スペインの館で行われ、崔さんの天使の歌声に酔いしれました。

スペインのシェフによるスペイン料理もとても評判が良く、良いことづくめで終了することが出来ました。ただ直ぐに満席になってしまい、大勢の方々をお断りしましたことを申し訳なく思っています。

お客様の中に、奄美の方、奄美出身の方がいらっしやいまして、大変喜んでいただき是非とも奄美でとお誘いを受けました。

発表会がご縁となつて奄美大島にて2013年11月15日奄美大島開運酒造主催「世界のオペラ歌手、魅惑の宵に 奄美を唄う」の開催が決定いたしました。場所は龍郷町のホールが音響が良いとかで、翌日は宇検村のホールにて四校の小学校の生徒さん方に聴いていただき、オペラのエリアのお勉強もしていただきます。



二〇一三年

”サマーワークショップ”

市川市バレエ連盟 西島真希子

去る八月二十三日(金)〜二十五日(日)の三日間、ヤニック・サンペイ先生による市川市バレエ連盟「サマーワークショップ」が、西島バレエスタジオにおいて開催されました。小学校四年生から、海外に留学中の生徒まで大勢の生徒達が、猛暑の中、毎日真剣にレッスンに取り組みしていました。

ヤニック先生はフランス人で、ドレステンをはじめヨーロッパのバレエ団で活躍された後、現在はオランダのDNTなど、ヨーロッパの多数のバレエ団に招かれ、教師として活躍されている方です。

毎日三クラスの講習会でしたが、先生はじめクラスも生徒一人ひとりに丁寧に分かりやすく指導してください、どの生徒も格段に上達したとお褒めの言葉をいただきました。参加させていただいた教師にも、とてもためになる充実した講習会でした。来年以降も、是非続けてワークショップを開催していきたいと思っております。そして、一人でも多くの生徒さんに、この素晴らしいレッスンを受講していただきたいと切望しております。



市川市芸術文化団体協議会参加団体

市川市花道協会  
市川交響楽団協会  
市川三曲会  
市川民話の会  
市川市合唱連盟  
市川市洋舞踊協会  
市川オペラ振興会

市川市手工芸連盟  
市川市写真連盟  
市川市バレエ連盟  
あずさ企画  
日本アートギャラリー  
茶道狭霧会  
千葉マスターズオーケストラ



サマーワークショップに参加された生徒さんたち

編集・発行 市川市芸術文化団体協議会  
広報委員会(湯浅)

事務局 〒272-0805  
市川市大野町 3-1766 湯浅方  
HP <http://www.geibun.org>

編集後記

文化都市市川の名のとうり、芸術文化に携わる人が多く住む市川です。戦後の混乱の中、芸術文化からも復興を考えようと市川市芸術文化団体協議会が千葉県の中の先駆けとして立ち上がったと聞いています。先人たちのパワーに敬服します。先駆者のひとり村上正治先生の生誕100年を記念して文化集会を催します。市内の文化団体全部結集している訳ではありませんが、バラバラに活動している芸術文化団体が点ではなく線をつながり市川市の文化向上に寄与するといふと考えます。この「芸文いちかわ」が多くの方に読まれることを期待して制作しています。(湯浅止子)